



小島葵さん!  
あなたに  
命じる!

契約に従い  
我に  
服従せよ!



えっ?



やったあ!

うまくいった!

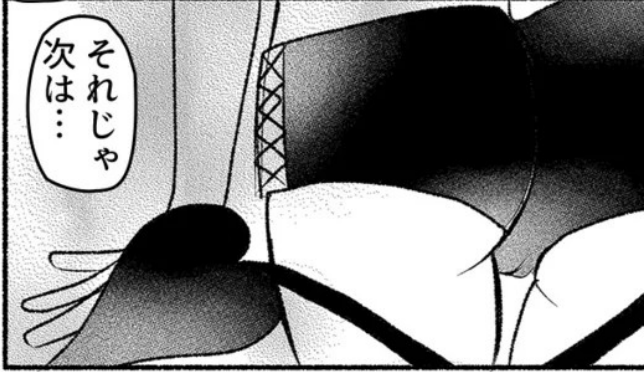
あ...あ...あ...





…何か  
様子が  
おかしいけど…

催眠状態に  
入ってるみたい  
だからいつか…

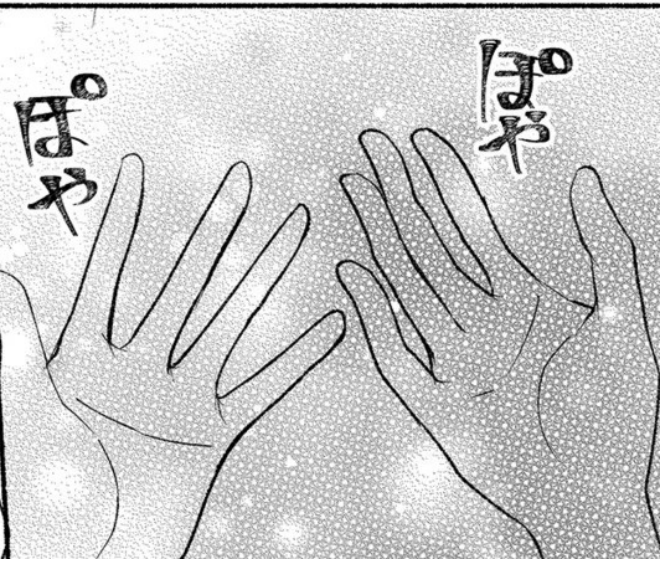


それじゃ  
次は…



よっー…

変身はうまく  
いった！



それじゃ  
小島さんに  
命令するね



ここに小島さんが  
二人いるとまずいから  
すぐに家に帰ること

それと今起きたことは  
キレイに忘れることっ

だっ  
大丈夫かな…(汗)



……

それじゃ  
小島さんの体と彼氏  
ちよっと借りるね



そうそうっ  
俺が変身を解けば  
小島さんの洗脳も  
解けるみたいだからっ！



……

私：  
ご主人様の  
言いつけ  
守らなきゃ…



確か：  
小島さんの彼氏って  
2組の上条だったよな…

まだ教室に  
いると  
いいんだけど…

櫻山先輩に告白して  
サキユバスにされてから  
3日経った…

最初は人間じゃ  
なくなっただことに  
戸惑ったけど…

っつー！

息が苦しいっ  
ちよつと  
走っただけなのにっ

サキユバスの時は  
こんな息切れ  
しないんだけど…

人間の女の子って  
こんなに弱いんだ…

脱皮した自分の皮を着れば  
元の姿に戻るし  
結構サキユバスとしての  
生活も楽しい

櫻山紗里先輩…

眉目秀麗な顔立ち  
誰もを魅了する  
妖姿媚態な彼女に俺は  
一目ぼれしてしまった

だが彼女の正体は  
サキユバスだった…

俺が意を決して  
告白すると  
先輩からの返事は  
まさかのOKだった

だが櫻山先輩は  
キスのふりして  
突然噛みついてきた

俺は体中の血液が  
煮えたぎるような感じに  
襲われ苦しんだ…

すると何故か  
背中に切れ目が入り  
俺の中から別の少女が  
出てきた

櫻山先輩と付き合う  
ことと引き換えに  
俺は幼少期の  
櫻山先輩の姿で  
サキユバスとして  
生まれ変わったのだった

はあはあ…

ついた…

櫻山先輩から  
教わった通り  
心を落ち着けて…

頭の先から  
つま先まで  
神経を張り巡らす  
感じで…

俺は小島奏さん…  
俺は小島奏…  
わたしは…

よしっ☆

これで  
完璧ね！

よかったあ…

まだ教室に  
いたんだね♡



どうしたの？  
奏……

先に帰るんじゃないの？

びっ  
びっ  
びつくりした……

上条の顔を  
見たとたん  
凄く心が  
ときめいた……

ドキドキ

ドキドキ

上条の声を  
聞くだけで  
凄く心地いい……

暖かくて……  
包み込むような  
そんな安心する声……

心臓がドキドキして  
息をするのも  
つらい……

ドキ……

小島さんって  
こんなに  
上条の事  
好きなんだ……

そうだ  
奏にこの前も  
言ったけど

俺の友達が  
奏に会って  
みたいって  
言ってるんだけど

今日これから  
会わない？

えっと…  
男の子って  
ちよっと怖いし  
上条君の友達でも  
無理かも…

それに私  
人見知りだしw

ごめんねっ

っち…

すげえ…  
俺小島さんの口調で  
しゃべってる…

きゃっ！

俺の大事な友達が  
会いたいわって  
言ってるのに  
何おめえ  
俺に逆らってるの？

何かムカつくんだけど  
おめえはいつから  
俺にそんな口答え  
できるようになったんだ？  
あ？

えっ…？

甘い言葉かけたら  
彼女ずらして  
凶に乗って

めんどくせえから  
俺だけで  
ヤっちまうか

ちったあ  
見た目がいいから  
ヤリ捨てするから  
ツレと回すか  
しようと思つたが

上条の奴…  
小島さんの事  
そんな風に  
思ってたんだ…

騒ぐんじゃ  
ねえぞつ!  
まあどうせ  
近くには誰も  
いねえけどなw





こいつ…  
前戯もなしに  
挿入するつもりかよう

こうなったら  
もうしようがない!



おらっ  
股開けよ!  
入んねえじゃ  
ねえか!

えっ?



ちよっ  
待て待て!



チャーム  
魔女の誘惑



よくも  
台無しにして  
くれたわね…

キミねえ…  
折角の食事タイム  
だったのに

あ…  
あう…



はあ…はあ…  
お願いだ…

キ…  
キス…して  
くれえ♡



さて…  
大好きな上条君は

どのくらい私を  
満足させて  
くれるのかしら？♡



まあ結局  
やることは  
変わらないんだけどね♡

上条君さ：  
すごく美味しそうに  
舐めてるけど

さっき  
おしっこしてきた  
ばっかりなんだけどな

まるで  
犬みたいだね…

か…なで…

あつ  
ん…

脚でしごかれて  
そんなに気持ちいいの？  
ホント変態だね♡

ギンギンに  
反って気持ち  
良さそうだけどさっ

私の靴下が  
汚れちゃうから  
イかないように  
我慢なさいよっ

あつ  
我慢汁いっぱい  
出てきた♡  
いい匂い♡

何？

ちん○ん

シゴいて欲しいの？

ホント  
だらしないよね  
キミって♡

舐めただけで  
何かイっちゃいそう  
じゃない？



ひゃっ！

グチャッ

キミ早漏気味なくせに  
立派なモノ持ってるから  
入らないかと思った♡

踏まれて  
悦んじゃう  
クズち○ぽの  
くせに

ほらっ  
もっと腰  
振りなさいよっ♡

大きさは  
別格で男らしくて  
ホント生意気♡

お腹の中を  
かき乱すみたいで  
すごお…♡

んっ♡  
あんっ♡

ひいんっ♡



すごく苦しそうな  
顔してるけど  
もういきそうなの？

あれだけ  
私を乱暴に扱った  
からもっと楽しませて  
くれるかと思っただのに

ホント期待外れw

でも私…  
お腹ペコペコだから

死なない程度に  
キミの精液もらうね♡

グキョッ♡

ニッコ♡

精液いい！  
いっぱい頂戴いっ！

きたあ♥  
イキのいい精子い♥

最っ高！♥

中で…いっぱい…  
どぴゅどぴゅ  
してるう♥

イクイク

子宮の中に  
精液が  
押し寄せる…♥

気持ち良すぎて…  
死んじゃいそつ♥

ほらほら  
まだ全部出して  
ないんでしょ？

またさつき  
みたいに  
ぴゅーぴゅーしてよ♥

ああんっ♥

わたし  
まだ満足して  
ないから♥

キミの精液  
全部搾りとって…

違うっ！  
そうじゃない！

快楽に  
流されるな…っ

またこの前みたいに  
戻ってこれなくなる…



ダメだ…  
気持ち良すぎて  
とまんなひい…♡



これ以上は…  
ダメなのに…

衝動を  
抑えなきゃ…  
また櫻山先輩に  
迷惑をかけちゃう…



でも…  
もう少しだけ…♡

もう少し  
だけなら…♡





あんっ♡



わたし…  
もうダメ…っ





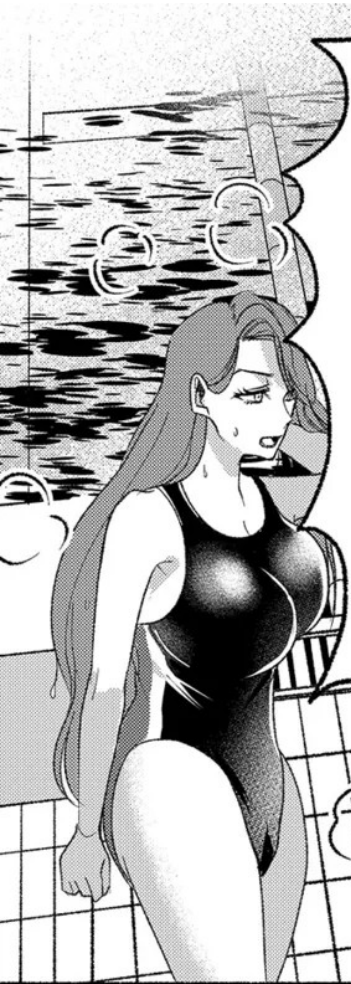
いっぱい  
せ○くぱい  
したあ  
♡

ち○ぽおー♡  
もつとち○ぽ  
ほしい♡

いたあ…♡



まったくお前さ！  
今まで何やってたんだよ！  
練習してる振りして  
サボってたんじゃない  
ねえーだろうなっ！



まあお前の場合は  
その巨大な胸が邪魔して  
練習にならんかw



彼氏に夜な夜な別の  
トレーニング  
されてんじゃない  
ねーだろうな？w

肩書だけの  
エロ教師がっ



死ねよっ！



ふわっ

えへへ…♡





センセ♡  
私の練習成果  
いかがですか…？

センセの仰る通り  
夜な夜な彼氏に  
鍛えられてるんです♡



あっ…

でっ  
出るう…



んっ♡

ん♡



っていうかセンセ  
あたしの水着姿  
エロい目で見て  
勃起してたよねw  
どんだけ変態なんだかw

あがが…

ぎぎぎ…



まだ出しちゃ  
ダメですよっ  
センセ♡

いっぱい我慢して  
あたしの子宮に沢山  
どぴゅーって  
するんでしょ？♡

でもだーめっ

センセって  
全然タイプじゃ  
ないもん♡

だからねっ  
あたしの性奴隷に  
してあげる♡

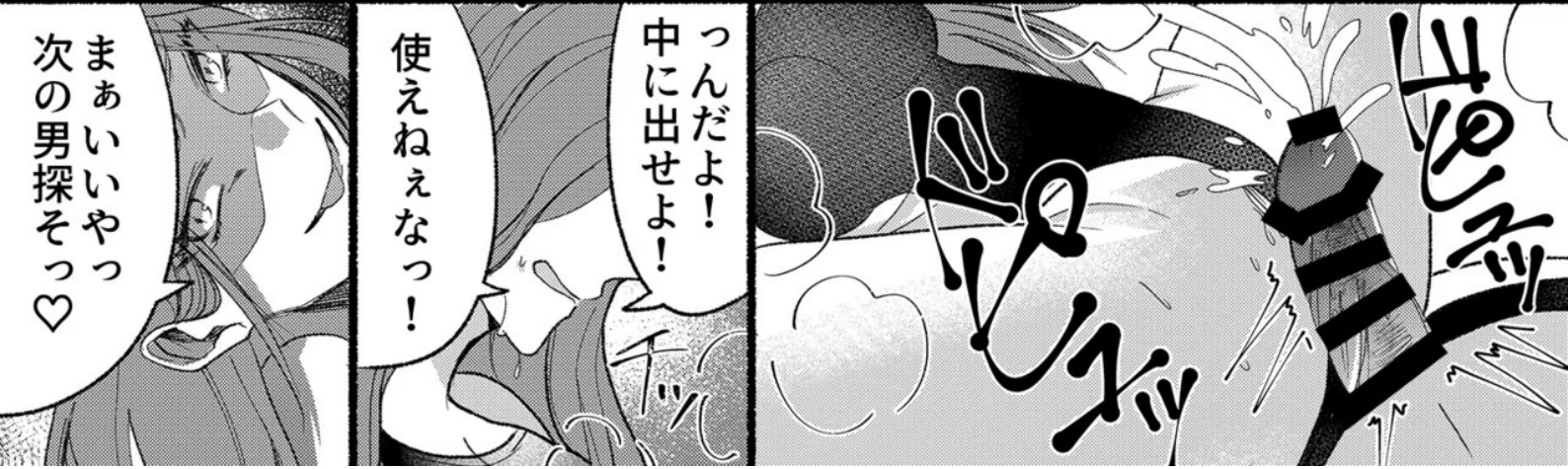
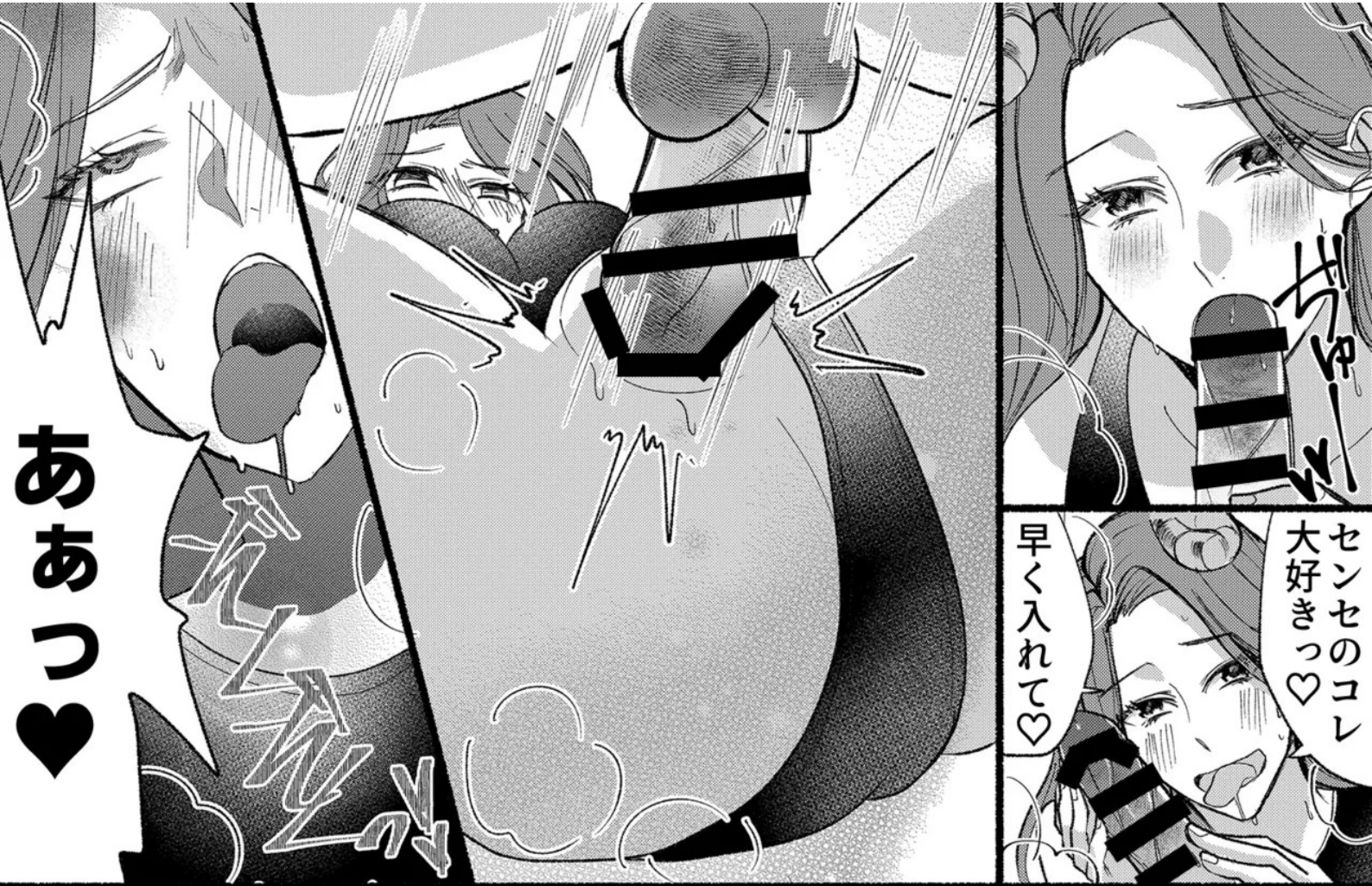
うれしいでしょ？

でもセンセの  
ち○こはおいしそう  
だから好き♡

念入りに  
キレイに  
しないとね♡

青臭くて  
ギンギンに反って  
タマタマにいつぱい  
溜まってそう♡

あーん♡





さっ  
櫻山先輩……っ！

あたし……  
何て言ったっけ？  
言ってみろ  
ん？

ひっ！  
ごめんなさい  
ごめんなさい

まああたしの顔見て  
正気に戻ったから  
許してあげるけど……



今度は  
もっと若い男を……

つたたくてえなあ！

つたく



ん……？



返す言葉も  
ございません……

つたく……あれだけ快楽に  
溺れちゃいけないって  
言ったでしょ！

あれっ？小島さん？  
何でここに？

家に帰れって  
命令した  
はずなのにっ！

う…ん…  
あれ…？  
私…

ここ  
どこ…？

あれ…？  
小島じゃんっ！

ん…？  
私…確か帰ろうと  
してたと  
思ったけど…

こんな所で  
何やってんの？

まったくお前は  
洗脳もろくに  
できないのかよ！

ごめん  
なさい…

あれえ…？  
なんで夏海が…  
っん？

何っこの子！  
超かわいいんだけど！

奇跡的な  
かわいさだっ  
コレ！

その恰好コスプレ？  
角としっぽ本物みたい！  
それどうやってんのっ？

こうなったら  
しょうがない…

もう一回  
洗脳して…

ひっ！

なにになに？  
魔女っ子ごっこ？  
それじゃ一緒に  
お姉さんと  
遊ぼうか…♡

ちがーうっ！

事情説明中



むしろ  
猛烈に尋問中

このサキュバスのサラは  
あたしが召喚して  
従属化させてるから…

適当にうそをついて  
後であたしが洗脳を  
すればいいか…

へえ…  
サラちゃんって  
すごいんだね♡

サキュバスなんて  
言われると  
俄然興味が湧いて  
きちゃったなあ♡

こいつらあ…  
こいつらあ…

ねえ私たちも  
仲間に入れてよ♡

調子に乗り  
やがってっ

待てよ…

晴幸はちよつと  
おつちよこちよいで  
心配だから

こいつらを  
サキュバスにして  
晴幸の代わりに  
食料を集めさせれば  
良くないか…？

集めさせてる間  
晴幸はあたしが  
じつくり教育して  
やればいい…っ

おいっ  
サラ！

こいつらも  
こう言ってるんだから  
首筋に噛みついて  
サキュバス化させて  
お前の下婢にして  
こき使ってやれ！

さすが  
櫻山先輩！  
話がわかるう！





そ…  
それじゃ…

んっ  
っ



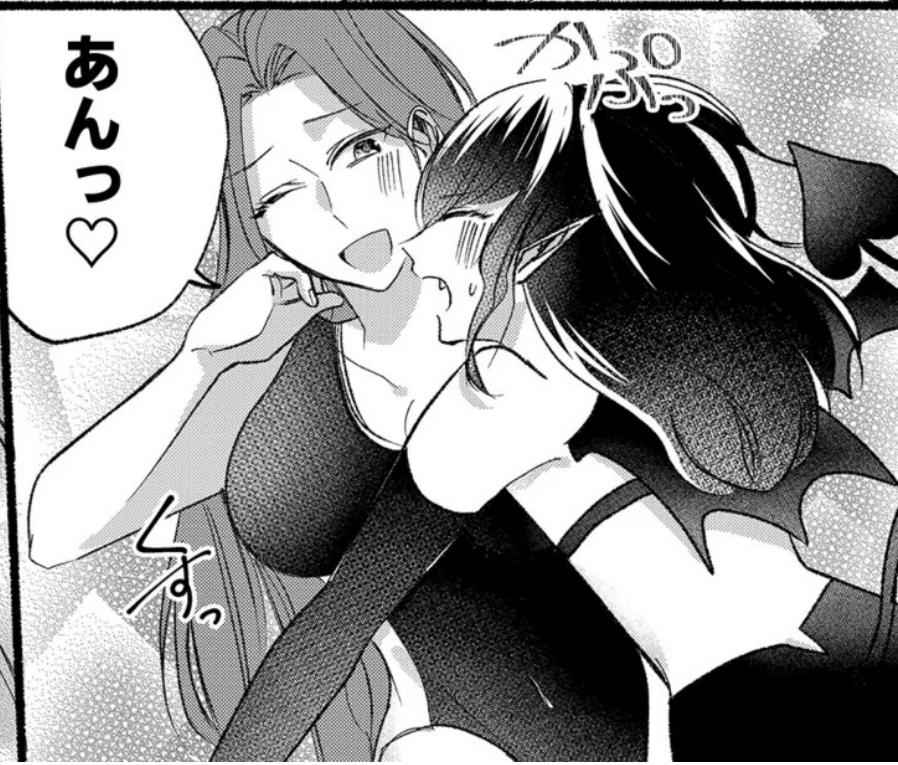
ほら  
ほらっ♡

ガブっと  
いって  
みようかっ♡



んっ  
っ♡

かっ  
っ



あんっ  
っ♡

かっ  
っ

んっ  
っ



全然痛くない…

むしろ  
気持ちいいくら…



これが：  
サキユバスの力：

凄い……っ  
力が湧き上がってくる……  
私じゃないみたいっ！



おいつ！  
人の話を聞いているのか！

だからねっ  
サラちゃんの仲間になれて凄く嬉しいよ♡

サラちゃん私ねっ  
小っちゃいころから  
魔女っ子とか凄く  
憧れてたの♡



これからはサラと共に  
あたしの命令に従い  
行動するよう……

これでお前たちは  
サラの下婢になり  
重ねてあたしの  
眷属になったわけだ

ちよつとお！  
夏海！  
サラちゃんは私の  
なんだからねっ！

はあ？  
何言ってるか  
分かんないしっ！  
奏はいつもそうやって  
横取りするよネ！



ふふふ…  
チューしちやっただ  
からね♡

あーっ！  
ずるーいっ！



晴幸っ  
ちよつと  
こい！



晴幸いっ？  
お前誰の彼氏か  
分かってるん  
だよなあ？

よく考えて  
行動しろよお！

うわあっ！



ホントお前さあ  
いつもあたしを  
イライラさせるの  
うまいよねえ！

怖え…っ！



明日の朝まで  
徹底的に  
再教育してやるから  
覚悟しとけ！

ひいっ！

